

知って安心！

アルツハイマー型認知症の薬あれこれ

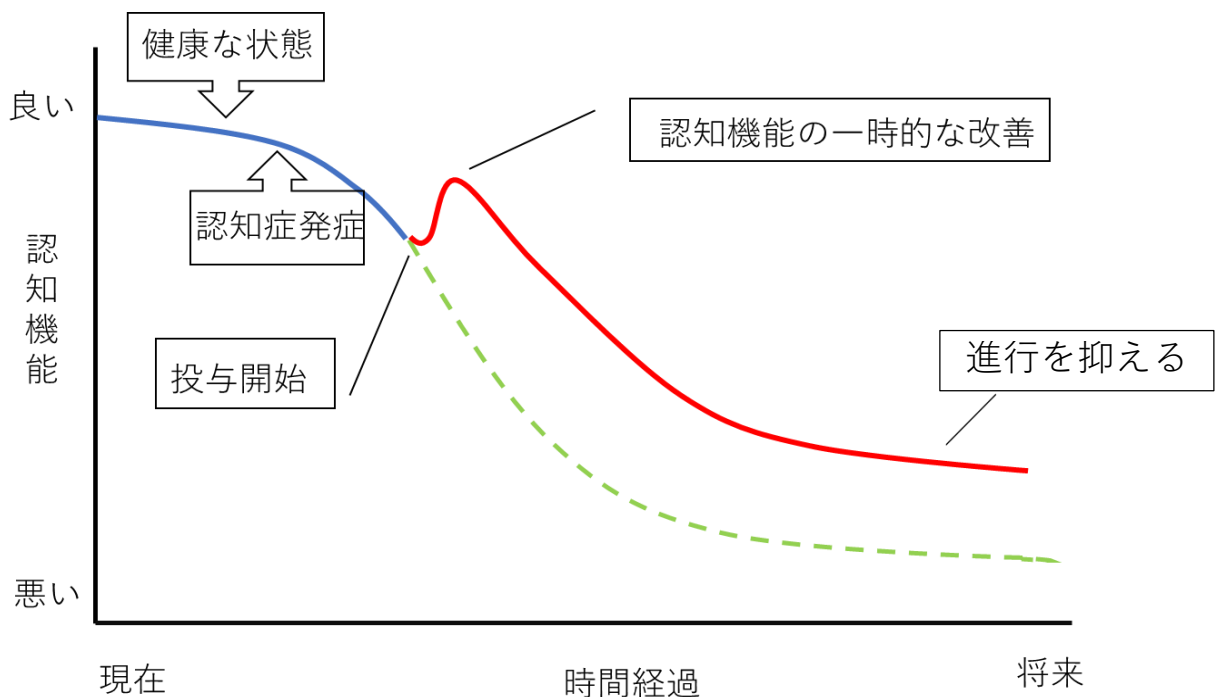
【認知症の薬をのむ意味】

アルツハイマー型認知症は、脳の神経細胞が徐々に脱落することによって脳の処理機能が低下する病気です。



現在、神経細胞を再生させたり死ぬのを防いだりする薬はまだ見つかっていません。しかし、治療をすることによって症状を軽くし、進行を遅らせることができます。

症状が進行する前に早期発見、早期治療をすることが、日常生活維持のために大切です。



【薬物治療】

脳全体の活動が低下すると、元気がなくなったり、意欲・やる気がなくなったりしてしまいます。このような場合には、脳を活性化する薬によって気力が回復する可能性があります。

また脳の神経細胞の働きのバランスが崩れると、すぐに怒ったりイライラしたりするような症状が出てくることがあります。このようなケースでは脳の活動を穏やかにしたり、神経活動のバランスを調節する薬が使われます。

実際の患者さんの症状は、意欲の低下とイライラが混在することも多く、数種類の認知症の薬を調節しながら処方していきます。



・認知症の薬は、大きく次の2種類に分けられます。

◎脳内の神経と神経のやりとりをスムーズにすることで脳を元気にさせて意欲やる気を回復させる薬。 → ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミン

◎脳の活動を穏やかにし、神経伝達を整えて神経細胞を保護する働きのある薬。

→ メマンチン



認知症の薬の効果や副作用は下の表のようになります。

薬の名称と使い方		効果	副作用
ドネペジル	飲み薬	脳の萎縮によって減少した神経伝達物質を増やし、神経間の情報伝達を促進させます。	吐き気、嘔吐、食欲不振、下痢、興奮など
リバスチグミン	貼り薬		食欲不振、吐き気、嘔吐など
ガランタミン	飲み薬	神経伝達物質を増やし、また情報を受取りやすくすることで情報伝達を促進させます。	吐き気、嘔吐、食欲不振、下痢、頭痛など
メマンチン	飲み薬	記憶に関わる神経物質を適量に調節し、興奮を抑えて神経細胞が傷つくのを防ぎます。	めまい、頭痛、便秘、転倒、血圧上昇など

また上記の薬と併用して神経の興奮状態をしずめて、怒りやすい状態やイライラを改善し穏やかな生活を取り戻す手助けとして漢方薬の**抑肝散(よくかんさん)**が処方されることもあります。

薬の効果には個人差があります。また副作用ができるだけ起きないようにのむ量を徐々に増やしたり、飲み薬が合わない方には貼り薬にするなど、それぞれの患者さんに合わせて調整していきます。

認知症の薬のことで気になることがありましたら主治医や薬剤師にご相談ください。



【参考文献】 病気が見える vol.1 神経系の疾患と薬

認知症と上手に付き合っていくために Meiji Seika ファルマ株式会社